

1. 呼応表現(cf. 配布資料 33-34)

否定：全然、決して、少しも、あまり、それほど、めったに →…ない (olumsuz biçimi)

願望：ぜひ どうか、どうぞ →…たい／…てほしい／…てください

推量： かならず →…する、…はずだ、…にちがいない

きっと、おそらく、 →…だろう、…はずだ、…にちがいない

もしかしたら →…かもしれない、…のではないか

比喩： まるで、あたかも →…ようだ、…みたいだ

仮定： もし、仮に →…したら、～ば、…ても、…でも

たとえ、いくら、どんなに→…ても、…でも

疑問： なぜ、どうして、いつ、どこ… → か、～のか

変化： だんだん、少しずつ、しだいに… → なる、増える、減る、上がる等変化をあ

らわす動詞

苦勞： せっかく、わざわざ →…のに、…ても、…からには、…のだから、

限定： ただ → …だけ、…ばかり

理由： なぜなら →…からである、…ためである

伝聞： ～によると、～によれば →…そうだ、…らしい、…ということである

問題： 次の文の呼応関係が正しいかどうか確認しなさい。正しくない場合は、改めなさい。

- (1) ただ一言いったのに、彼はとても機嫌を損ねてしまった。
- (2) もし今日電話する、明日までに間に合うかもしれない。
- (3) たとえ同じことを 100 回言って、彼は理解しないだろう。
- (4) 海外生活の問題点は、言葉が通じずに苦勞する。
- (5) 注意しなければならないことは、検査の前日は何も食べてはいけない。
- (6) 日本語能力試験にもし合格しないから、新潟大学に留学することは難しいだろう。

AÜ Yazırı Anlatım I 10. ders

- (7) 忘れてはいけないのは、パスポートは絶対になくしてはいけない。
- (8) 勉強をしなくなったら、日本語もどんどん忘れるだろう。
- (9) あるデータによると、ひげの男性を好ましいと思う女性が減っている。
- (10) 私は、なぜ彼らはそのような行動をしたと考えた。
- (11) どれほど才能があるが、努力しなければ何も結果を生み出すことはできない。
- (12) 私が日本語日本文学科を選んだ理由は、漢字やひらがなに興味を持った。
- (13) 勉強量が増えるのにしたがって、成績も上がる。
- (14) おそらく、日本語を勉強する外国人の数は今後減る。
- (15) ただ机に座っていて、勉強しなければ意味がない。
- (16) どうか日本からお土産を買ってきなさい。
- (17) もしかすると、私の収入はとても低い。
- (18) 私は将棋では、決して勝負がつくまであきらめる。
- (19) 彼女の民族舞踊は、まるで美しい蝶が舞う。
- (20) このようなひどいことを、一体誰が行った。

2. 筆記課題

以下の課題に解答しなさい。

あなたが入社を希望している日系企業から、以下のテーマでエントリーシートが提示されたと仮定し、出題に解答しなさい。

あなた自身を構成している要素をキーワードとして5つ挙げ、それらについて説明してください。

AÜ Yazırı Anlatım I 10. ders

- ※ 「事実の記述」に基づいて文章を展開すること。
- ※ 事実の記述の中に、根拠のない意見が入り込まないように注意して書くこと。
- ※ 配布プリント p37-39 「第3者に説明するための文章を書くときの原則」を守ること。
- ※ 「私は…思う」という表現を使用しないこと。
- ※ 字数は自由。ただし、A4用紙1枚以内に収めること。
- ※ 箇条書きのようにしないこと。まとまった文章にして提出すること。

配布資料の出典：

林治郎・岡田三津子（編著）(2008)『改訂版 言語表現技術ハンドブック』. 大阪：晃洋書房.